

第4章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）

## 第4章 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）

## （1）亀岡まるごとガーデン・ミュージアム（農村部）の資源

市域全体が一体となった「小盆地宇宙」、亀岡盆地（前掲図2-2：29頁）には、各地域に固有の自然環境、長い年月をかけて培われてきた歴史がある。亀岡の地における暮らし方や生業、伝統文化は、亀岡市の農村部における独自の景観を形作りだし、生物多様性の保全上においても重要な役割を果たしてきた。本構想においては、それぞれの地域にとってかけがえのない自然、歴史・文化的な資源をまるごと、山並みに包まれた一つの世界として捉えることが不可欠である。

## 1) 生物多様性保全上の重要な地域資源の抽出と課題

亀岡市農村部は豊かな自然に恵まれており、自然の緑は「山並み」「田園」「河川等の水辺」の3つで構成されている。「山並み」としては、亀岡盆地を取り巻く山並みや西部及び南部の山並みがある。水田や畑地、果樹園、竹林などから構成される「田園」は、市街地周辺部、川東地区、西部及び南部の谷間部に豊かな田園風景が広がっており、特に川東地区は、田園と集落が一体となった里山景観を形成している。「河川等の水辺」としては、桂川などの河川やそれらの支流、溪谷、ため池、滝、湧水等があげられ、野鳥と水生植物の生命を育むビオトープ、良好な水辺環境を形成している。

環境省による「生物多様性保全上重要な里地里山 500選の一つに「亀岡盆地の氾濫原」（図4-1）があり、その選定理由は、「京都府のほぼ中央に位置し、周囲を峻険な高峰に包まれた盆地であり、中央部を保津川の清流が貫いている。古来、農耕を主体とした文化が発達した地域であり、水田を含む河川氾濫原の湿地生態系が良好な状態で保たれてきたことから、アユモドキ等の希少な湿地性動植物が生き延びてきた。当該地域は、近畿地方で唯一のアユモドキの生息地として重要であり、市の環境のシンボルであるアユモドキの生息環境の保全・再生の取組による当該里地里山全体の保全、その他様々な種の保全が期待される。」となっている。

これらは、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）の拠点として重要な自然環境である。こうした自然環境を踏まえ、生物多様性の保全上重要な地域資源を抽出した。



図4-1：亀岡盆地

出典：亀岡市所蔵写真

## ア 「山並み」・「田園」に係る地域資源の抽出

亀岡の森林ではアカマツが優占し、そのほかコナラ林、スギ・ヒノキ植林地などが分布し、マツタケ採取、薪や柴の採取、スギやヒノキの用材利用等が行われてきた。また、筏師や船頭が水運の部材等で用いるフジ（材の結束に使う）、ソヨゴ（棹の先に使う）、アラカシ（舵緒に使う）等も採取された。林床には、モチツツジ、シャクナゲ、カタクリなど多種多様な植物やキノコ類が見られる。川沿いの森林にはケヤキやイロハモミジを中心とする溪畔林やアラカシ林もある。農林水産業等の人と自然とのつながりの中で形作られてきた亀岡の里山景観には、自然との共生や持続可能な社会といった観点からより一層の価値が見いだされている。そして、里山としての利用がなされてきた二次林や手入れのなされた植林地、溪畔林等がモザイク状に存在することが、亀岡市域全体での生物多様性や希少種の保全上で、また四季折々の豊かな景観形成上で大きな役割を果たしている。

また、市内各地に点在する「社寺」は、古来、鎮守の杜を形成している。こうした「社寺」や学校には、ケヤキ（余部八幡宮）、モッコク（王子神社）、ヤマモモ（宗蓮寺）、オガタマノキ（亀岡小学校）、クロマツ（専念寺）、エノキ（南郷池畔）等多くの名木、大木が、また、東別院町の森、御霊神社の森（亀岡市指定木：5本）、南丘陵地の長尾地域にある市民の森がある。これらの樹木や森は、生物多様性を支える要素、拠点として重要である。

伝統的な水田の構造が残る地域を中心に多様な動植物が確認されており、国営亀岡農地再編整備事業における保全対象種として、動物では、メダカ、スジシマドジョウ、カネヒラ、ヤリタナゴ、ヌマムツ、カワヒガイ、イシガメ、ドブガイ、マツカサガイ、イシガイ、トンガリササ、カタハガイ、マシジミが挙げられている。植物は、オグルマ、アゼオトギリ、クマツヅラ、ミズワラビ、ミゾコウジュ、アマナ、ヒガンバナ、ハンノキとなっている。ナゴヤダルマガエル等の様々な両生類も伝統的な構造が残る水田周辺でみられる。また、国営亀岡農地再編整備事業の対象地域（川東地区）における住民ワークショップで作成された「国営亀岡地区お宝マップ」と既存上位計画に基づく環境との調和への配慮に関するゾーニング（図4-2）では、以下の4つのゾーンに区分されている。

- ・石積みの棚田と生き物ゾーン　：石積みの棚田が素晴らしく、ヒガンバナも多く確認される
- ・生活用水確保ゾーン　　　　　：古川から集落の生活用水を引き込んでいる
- ・畦畔木と生き物ゾーン　　　　：七谷川が中央を流れ、畦畔木や水生生物が多い
- ・史跡保全ゾーン　　　　　　　：千歳車塚古墳のような「大きな歴史」と道祖神のような「小さな歴史」等、数多くの史跡がある

川東地区の例にみるように、亀岡市域全体での農地のあり方が、動植物の生育、生息地としての価値に大きな影響を与える。亀岡市域にある石積みの棚田、ヒガンバナの群生地、史跡など伝統的な田園の要素、構造を保全することが生物多様性の保全上極めて重要であり、史跡あるいは暮らしとの関わりという観点も含め、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想を支える基盤と捉えていく必要がある。



山並みと竹林



里山からの薪



カタクリ



水田とヒガンバナ

出典：亀岡市観光協会

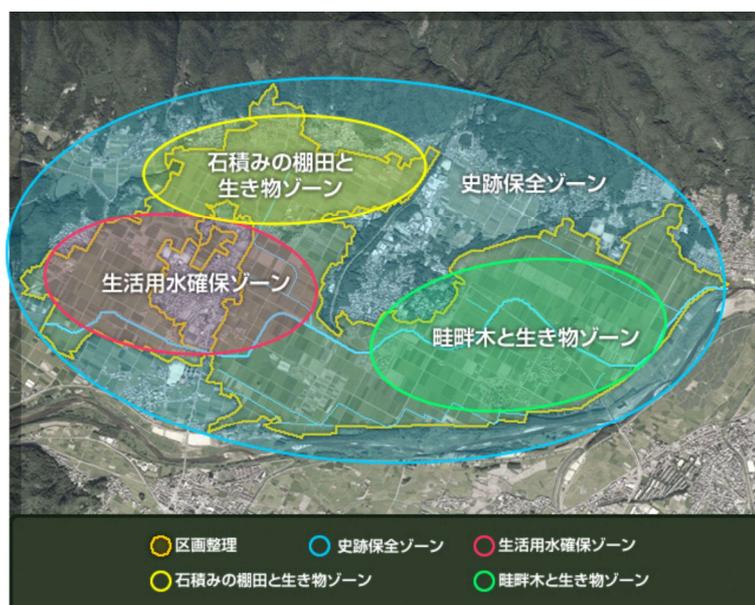


図4-2：亀岡地区環境配慮ゾーニング

出典：近畿農政局資料

#### イ 「河辺等の水辺」に係る地域資源の抽出

大きく蛇行しながら流れる保津川では、平瀬、早瀬、淵等多様な水辺空間がみられ、ワンドの存在や水田とのつながりによって多様な水辺環境が確保されてきた。そのため、全国でも有数の淡水魚の生息地となり、ナマズ、コイ、ドジョウ、メダカ等 29 種が確認され、その中にはアユモドキ、イチモンジタナゴ、ホトケドジョウ、メダカ等の絶滅危惧種が含まれる。七谷川の清流とその上流には、ヤマメが棲息し、東加舎区の太谷水路、コモ水路にはホトケドジョウがみられる。保津川や周辺の小河川では、水田の取水が始まる頃を中心に川漁が行われ、アユ、ハヤ、フナ、ウナギ等様々な魚が対象となった。川魚ではビクやモンドリ等の漁具が用いられ、大量に捕れた魚は焼いて串に刺して乾燥させ、保存食として食べたり、出汁として使ったりした。

出雲大神宮の御陰の滝や音羽溪谷等にある大小様々な滝、湧き出る枯れない水（真名井の水）をはじめとする亀岡市域の各所にある湧水は、豊かな自然環境の基盤として重要な地域資源である。愛宕谷川、犬飼川、曾我谷川、大路次川、栢原川や集落周辺の水路、イケ等の小規模な水辺も多様な植物や生物と深い関わりをもってきた。例えば、愛宕谷川や千々川下流にサンショウオ、曾我谷川にアユモドキがみられ、宮前町の人里を離れた清流や鳴滝、鶉の川、犬甘野川にはホタルが棲息し、篠町の水辺ではモリアオガエル、カスミサンショウウオがみられる。また、平の沢公園のオニバスは京都の自然 200 選となっている。平の沢公園の上池・中池・下池には、一年を通じて様々な水鳥が飛来し、「水鳥の道」として散策路・駐車場が整備されている。こうした水辺周辺では、カイツブリ、チュウサギ、トラツグミ等多くの鳥類が確認されている。亀岡の地域固有の豊かな生態系や動植物の存在が地域性豊かな里山景観を生み出しており、将来に向けて継承するための礎となっている。

生物多様性の保全上の課題としては、里山の荒廃、野生生物との軋轢（獣害）、希少種（アユモドキ、オオサンショウウオ等）の減少、外来種（オオクチバス、ウシガエル等）問題等があり、これらの課題の解決が求められる。



保津川



曾我谷川



平の沢池

## 2) 歴史・文化の保全上重要な地域資源の抽出と課題

亀岡市における歴史・文化の保全上重要な地域資源として、地域ごとに様々な特徴をもって存在する寺社を挙げることができる。神社としては、梅田神社をはじめ、毘沙門八幡宮社、出雲大神宮、愛宕神社、鋏山神社、禊田野神社、與能神社、小幡神社、蛭子神社、御霊神社、若宮神社、河阿神社、西山神社（歳振り神事、祇園会神事）、宮川神社、篠村八幡宮、桑田神社、村山神社、松尾神社、拝田厄神社、天満宮（小林）、等がある。お寺としては、丹波七福神を祀る7ヶ寺（神応寺、養仙寺、蔵宝寺、金光寺、耕雲寺、極楽寺、東光寺）、国分寺、金剛寺、神藏寺、千手寺、積善寺（桜天神）、苗秀寺、金輪寺、谷性寺等がある。また、穴太寺、法常寺、龍潭寺にある京都府指定名勝の庭園など、信仰と結びついた固有の樹木や、周辺の森林植生、水辺を活かした庭園がある。そして、石田梅岩が説いた商人道といわれる「石門心学」や、小幡神社にある故上田正昭宮司（京都大学名誉教授）による歌碑「山川も草木も人も共生のいのちかがやけ 新しき世に」にみる人と自然との共生の思想など、亀岡には心の拠り所となる場が市域全体に点在し、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の拠点として位置付けられる。

車塚古墳、笑路城跡、古来、交通の要衝となる山陰街道や半国山登山道、明智戻り岩等の名所・史跡も重要である。伝統的な集落等でみられる生垣や土塀、傾斜を活かした石組みの水路、石積み塀等も地域資源を活用した歴史・文化的な要素となっている。自然災害に対する伝統的な知恵や技術が体现された事例として、「伊賀ばね」（千歳町国分の集落背後の牛松山から流れる大雨時の急流に対し、石組みを使って水を横にはねるように流し、災害を避けるようにした人工の水路）、「沈下橋」（増水時に川に沈み込むように設計された保津川にかかる橋）等がある。暮らしと結びついてきた多種多様の伝統工芸（仕上げ砥石、刀鍛冶、竹細工等）、亀岡盆地の気候や水、土壌などの自然環境を活かし、地域の風土に適応した農林水産物も生産されてきた。篠の聖護院かぶ、犬甘野そば、丹波くり、馬路大納言小豆、亀岡牛など地域の特産品に加え、賀茂なす、えびいも、九条ねぎ、寒天、タケノコ、柿、松茸などの産品は、地域内外の食文化の発展にも貢献してきた。大平山の砥石、丹波鞍馬石（千代川地区の沓脱石）等の岩石・鉱物も重要な地域資源となっている。



国分寺



穴太寺の庭園



小幡神社の歌碑



古道



石積みの棚田



タケノコ生産林

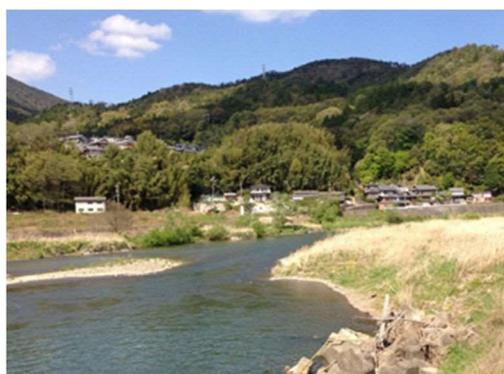


野菜と果樹

### 3) 文化的景観として保全上重要な地域の抽出

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想における景観の保全上重要な地域として、文化財保護法に基づく「重要文化的景観」の候補地、保津川周辺の保津・山本集落を挙げることができる。亀岡盆地を流れる保津川周辺では水辺を利用した水運が発達しており、保津・山本集落は水運の拠点となってきた。一方、大雨が降ると上流からの流れが保津峡でいったん狭くなるため川が逆流して水害が起こることから、川の恵みや脅威と向き合い、自然と折り合うなかで育まれてきた文化的景観が形成されており、地形の特性を活かした土地利用（段丘上の集落、水防用の竹林、保津小麦の生産、谷水利用の水路・イケ等）がみられる。また、保津川の生物や水運に係る文化（棹・竹細工・筏の材としての竹林、櫛ひも材のシュロ、水寄・川作の技術等）を保全する取組み（アユモドキ保全活動、筏復活プロジェクト、ほづあい研究所による京藍復活の取組み等）も行われている。

また、川東4町は古代丹波の国の中心地となり、歴史文化遺産が数多く散在することから、景観の保全上重要な地域として位置付けることができる。長年にわたって大きく変わらない自然景観と絶妙に調和したこの地域の文化的景観は、「まほろば・亀岡かわひがし～古代丹波の原風景～」という名称で京都府による景観資産登録に向けた取組みが進められている。この地域は断層線崖に発達した扇状地や河岸段丘として形成され、広大な田園や山麓に沿って、歴史的文化遺産が豊かに存在すると共に、山陰道の東端にあり、様々な文物の交流点として栄えていた。さらに、オニバスの保護活動や野鳥の生息場所となる平の沢池周辺環境保全活動、丹波七福神等の散策路のルート作成等、まちづくり活動も積極的に行われている。



保津集落周辺の景観



丹波七福神の散策路周辺の様子

4) ワークショップで提示された亀岡で大切にしたい地域資源

平成 29 (2017) 年 10 月に行われた第 1 部ワークショップ (地元関係者が参加) における主な意見は以下のとおりである。

第 1 部ワークショップ/地元関係者における主な意見

<p>1 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バラ園、ヒガンバナ、田んぼの夕日等を残しながらスポットや観光地に (棚田、七福神、保津川、神社等)</li> <li>・ 見直すきっかけとして実際に歩きながらよい風景を探し、発信する</li> <li>・ 多くの人の目に触れるように、良い場所、景観を視覚化していく</li> <li>・ 点と点をつなぎテーマごとにコースを設ける (名木めぐり、水めぐり、花めぐり、堀めぐり等)</li> <li>・ 亀岡の代表的な地域資源 (コノハナザクラ、メガルカヤ、エノキ等) をつなぐ</li> <li>・ 亀岡ならではの土産を作り、アピールする</li> </ul> <p>2 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いいものが既にあるので、それを亀岡市民が自覚し、愛着を抱くことが大切</li> <li>・ 自然環境が魅力なので、前面に出して発信する</li> <li>・ 知ることにより市外に情報を発信し、交流人口を増やす</li> <li>・ 貴重な植物、昆虫が全体に分布するので、データ化して市民に発信する</li> <li>・ 構想の作成プロセスが大事なので、この段階からできるだけ多くの市民に参加してもらう機会をつくる</li> </ul> <p>3 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都から電車で訪れた時、保津峡をぬけパッと自然が開けるところが魅力である</li> <li>・ 自然の豊かさ、シンボリックな山を活かす</li> <li>・ 馬路町の土堀のある集落、国分寺跡、丹波七福神めぐり、河原林町の生垣や石垣、商工会館横のサイカチの木、保津明智越えトレッキング、篠町の眼鏡橋、紅葉の美しさ、西別院町の名水やホテル、桔梗の里等も重要である</li> <li>・ 情報発信としてミュージアム回廊の PR 案内板等の仕組みを作る、SNS の活用、マップ作りを行う</li> <li>・ レンタサイクルをつかったロードサイクルの取り組み</li> <li>・ 緑の維持管理を徹底する</li> <li>・ オープンガーデン (個人の庭を見ていただく等) の取り組み等、新しい展開を</li> <li>・ トラック朝市 (軽トラで獲れたての野菜等を持ち寄る) を開催する</li> <li>・ 町家、古民家を活用したカフェ、農家レストラン</li> </ul>
--

5) 自治会アンケート結果にみる大切にしたい地域資源

農村部に関連する自治会に対し、大切にしたい自然環境、歴史・文化、資源を利用する知恵や技術、自然や文化を活用した取組み状況等についてアンケートを実施した。その結果、表4-1に示すような地域ごとの様々な資源や取組み等が明らかになった。

表4-1：自治会アンケートで抽出された大切にしたい資源や取組み（1/3）

自治会名	1. 地元自治会の範囲にある場所、事柄				2. 魚、植物、キノコ、湧水等の自然の恵み（資源）を活用してきた知恵や技術	3. 地元の自然や文化を活用した取組み、活動
	(1) 自然環境あるいは生き物のすみかとして大事な場所・事柄	(2) 地域の歴史・文化として大事な場所・事柄	(3) 衣食住や暮らしに関わる地域の資源	(4) 美しい景観・地域で大事にしたい景観		
東別院町	・ 栢原川 ・ 東別院の森	・ 春日神社 ・ 秋祭り	・ 春～秋野菜	・ 鎌倉道の桜並木 ・ 南掛畦のヒガンバナ ・ 府道、南掛川からの展望	・ アユ、ウナギ、釣り ・ 炭焼き（ナラ、カシの木）	—
西別院町	・ 犬甘野川のホタル	・ 松尾神社（御田植）	・ 犬甘野そば	・ 鴻応山からの眺望 ・ 笑路城跡	・ 竹炭	・ 自然環境を活かして移住促進運動
曾我部町	・ 犬飼川 ・ 曾我谷川 ・ 與能神社 ・ ダルマガエルの生息地	・ 與能神社 ・ 小幡神社 ・ 穴太寺 ・ 金剛寺	・ かめまるいも ・ 京野菜の産地 ・ 曾我部米 ・ 玉ねぎ（町の特産品だった）	・ 曾我部盆地の雲海 ・ ヒガンバナの群生地	—	・ 與能神社の神輿巡行と太鼓
吉川町	・ 犬飼川	・ 蛭子神社	—	・ 市体育館横、犬飼川堤防の桜並木	—	・ とんど焼き ・ 寒天づくりの道具を展示（越田）
稗田野町	・ 御霊神社の森（市指定木5本）	・ 佐伯灯笼祭（四社合同祭典） ・ 稗田野神社 ・ 御霊神社 ・ 若宮神社 ・ 河阿神社 ・ 龍潭寺 ・ 神藏寺 ・ 千手寺（とこなげさん） ・ 積善寺 ・ 苗秀寺	—	・ 神藏寺 ・ 大正池からの展望 ・ 千手寺（とこなげさん）からの展望 ・ とうろう街道（国道372号バイパス沿線）	—	・ 歩いて知ろう ひえだの町（小学生含む住民が、町内の神社、仏閣等を見学、餅つき大会を実施。）
本梅町	・ ホトケドジョウ	・ 加舎神社（西加舎区）の氏神と屋敷内神社（東加舎区）の神は夫婦で、秋祭り、両地区の神輿は同じお旅所から出発。	・ 丹波くり ・ ほんめ米	・ 半国山からの展望	・ ユキノシタ（風邪や火傷に活用） ・ チドメグサ（擦り傷等の血止めに活用） ・ 刀鍛冶（中西裕也氏、西加舎在住、京都唯一の刀鍛冶職人）	・ 盆踊りや夏祭り ・ 本梅町民納涼大会 ・ 本梅町秋祭り（毎年10月体育の日前日）、では子供神輿（中野区・平松区、井手区）、大人神輿（西加舎区、東加舎区） ・ サナブリ：廣峯神社（中野区）では、7月第1日曜日に「総早苗振り」として開催、氏子が早苗と小麦持ちをお供え。
畑野町	・ 一庫・大路次川の本流・支流 ・ 半国山登山道	・ 大梅山法常寺 ・ 西山神社（歳振り神事、祇園会神事）	・ 稲わら（畑の覆土、注連縄、荒縄、たい肥、防寒用等）	・ 半国山からの展望（大阪市街地まで見える）	・ 畑野の寒天づくり ・ 味噌の寒仕込み（冬季の冷え込みを利用）	・ 盆踊り（畑野音頭） ・ とんど焼き ・ 火の用心夜回り（年末）

表4-1：自治会アンケートで抽出された大切にしたい資源や取組み（2/3）

自治会名	1. 地元自治会の範囲にある場所、事柄				2. 魚、植物、キノコ、湧水等の自然の恵み（資源）を活用してきた知恵や技術	3. 地元の自然や文化を活用した取組み、活動
	(1) 自然環境あるいは生き物のすみかとして大事な場所・事柄	(2) 地域の歴史・文化として大事な場所・事柄	(3) 衣食住や暮らしに関わる地域の資源	(4) 美しい景観・地域で大切にしたい景観		
宮前町	・ 人里を離れた清流のホタルの生息地	・ 金輪寺 ・ 谷性寺 ・ 宮川神社	—	・ 金輪寺山腹から見える雲海	—	—
東本梅町	—	—	—	・ 半国山と音羽の滝 ・ 大内の大スギ	—	—
大井町	—	・ 大井神社 ・ 鉄道歴史公園	・ 小松菜、賀茂なす、枝豆紫ずきん、聖護院かぶら、えびいも、山芋	・ 桂川右岸堤防桜並木、通称金岐道染井吉野桜、八重桜	—	・ 大井盆踊り大会、大井町民運動会、大井町民祭、大井神社夏祭り・秋祭り、大井町クレーン作戦、大井町戦没者追悼式
千代川町	・ 鳴滝（ホテル、北ノ庄） ・ オオサンショウウオ	・ 岩城神社（湯立祭、秋祭神輿、北ノ庄） ・ 拝田厄神社（拝田） ・ 千代川小学校門（市指定文化財） ・ 天満宮（小林） ・ ハツ岩権現二十一尊摩崖仏（北ノ庄）	—	・ 桜（月読橋～今津周辺、巖松寺周辺） ・ 畔木（湯井、北ノ庄） ・ 行者山（ハイキングコース）	—	—
馬路町	・ 平の沢池（公園）オニバス生育地、様々な水鳥の飛来地	・ 池尻天満宮：オガタマノキ、萬燈祭（50年に1度） ・ 北村龍象（典学舎）、三輪田真佐子（私立三輪田女学校創設者）、中川小十郎（立命大学創始者）等近代教育の多くの先駆者を輩出。 ・ 55年前に川東4町の小学校が統合して川東小学校、平成29年度京都府義務教育学校（小中一貫校）第1号として開校。町内に川東保育所、亀岡川東学園（小中学校）、南丹高校が配置、学問の風土が強い教育の町。 ・ 中澤、河原、畑、中川、人見等各姓による祖霊社のお祭り。	・ 京野菜（賀茂なす、えびいも、九条ねぎ等）の産地。 ・ 馬路大納言小豆。 ・ 大平山の砥石（砥石、最上質の砥石で、日本ではこの場所のみで産出。） ・ 石灰岩層から湧き出る地下水。	・ 平野沢公園一帯：川東4町は古代丹波の国の中心地、歴史文化遺産が数多く散在。当時と大きく変わらない自然景観と絶妙にマッチした川東4町ぜんたいが美しい景観。	・ 地元の女性組織（農産加工グループ）による、地域農産物の加工食品の生産活動（馬路味噌、行事食の継承・普及等。）	・ 馬路盆踊りサークルによる「馬路音頭」の普及活動。 ・ 子供会によるお祭り（子供神輿） ・ 文化祭や敬老会等、各種自治会・各区分行事が展開。 ・ 川東4町のゾーン全体を「古代丹波の原風景―丹波まほろばの里・亀岡川東」として「京都府の景観資産登録」認定に向けて手続き中。
旭町	—	・ 印地地区の梅田神社 ・ 山階地区の天照皇神社 ・ 美濃田地区の松尾神社	—	—	—	—
千歳町	・ 出雲大神宮裏山（御影山）とそこから湧き出る枯れない水（真名井の水） ・ 七谷川の清流とその上流に棲むヤマメ	・ 毘沙門八幡宮社 ・ 国分寺 ・ 愛宕神社 ・ 丹波七福神を祀る7ヶ寺（神応寺、養仙寺、蔵宝寺、金光寺、耕雲寺、極楽寺、東光寺） ・ 出雲大神宮の花鎮祭 ・ 愛宕神社の鎮火祭	・ ミネラルを多く含む水が育む米、葉物野菜、小豆等	・ 七谷川堤防の千本桜 ・ 耕雲寺前から広がる亀岡盆地の景観	・ 「丹波七福まつり」として、七福神めぐりを中心にまち興しイベントを盛大に開催している	—

表4-1：自治会アンケートで抽出された大切にしたい資源や取組み（3/3）

自治会名	1. 地元自治会の範囲にある場所、事柄				2. 魚、植物、キノコ、湧水等の自然の恵み（資源）を活用してきた知恵や技術	3. 地元の自然や文化を活用した取組み、活動
	(1) 自然環境あるいは生き物のすみかとして大事な場所・事柄	(2) 地域の歴史・文化として大事な場所・事柄	(3) 衣食住や暮らしに関わる地域の資源	(4) 美しい景観・地域で大切にしたい景観		
河原林町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七谷川（桂川支流）で、アユモドキやゲンジボタルの生息環境づくりを目指している（町づくり計画）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日吉神社と秋祭り（神輿巡行）、本殿と拝殿は府指定文化財。ケヤキ、オガタマノキ。</li> <li>・遠山家住宅（重要文化財）</li> <li>・国分尼寺史跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹波大納言小豆</li> <li>・市の農業公園が立地。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七谷川周辺緑地（市指定緑地）</li> <li>・生垣の集落</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度「河原林町まちづくり計画」を策定、平成27年度から本計画の具体に向けた取組みを展開。府地域力再生交付金の活用等。</li> </ul>
保津町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンショウウオ</li> <li>・アユモドキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸田神社、保津の火祭り</li> <li>・八幡神社</li> <li>・金毘羅神社</li> <li>・保津川下り</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保津小橋からみる夕焼け</li> <li>・八の坪の花回廊（桜、モミジ、カンツバキ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保津町での川魚は、昔はたんぱく質をとる食材で、どの家にも川魚の燻製が保存食としてオクドサンの上につるされていた。川魚をとる漁法も魚により異なり、30種類ほどある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保津町は歴史も古く、地域に残された昔話、言い伝え、名所も多数。それを後世に残すため160本の看板を設置。「保津百景道しるべ」をとりまとめ。</li> </ul>
篠町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南丘陵地の長尾地域（市民の森）：コナラ等の自然林、ミドリシジミ、アサギマダラ、コベソマイマイ、カスミサンショウウオ等の生息地。里山体験も実施。</li> <li>・一級河川鵜の川のホタル</li> <li>・モリアオガエル</li> <li>・カスミサンショウウオ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篠村八幡宮</li> <li>・鍛田神社</li> <li>・村山神社</li> <li>・長尾丘陵にある篠窠跡群</li> <li>・歴史ある「唐櫃越」旧山陰道、老ノ坂峠</li> <li>・三間車道とめがね橋（明治の京都府の三大事業の一つ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜（聖護院かぶら、青ネギ、トマト、丸大根、白菜、キャベツ等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の森」からの展望（雲海、愛宕山・千歳山等の西山連峰、比良山系、京都市内）</li> <li>・一級河川西川の桜並木</li> <li>・一級河川年谷川の松並木</li> <li>・京馬車</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山本浜での鯉のぼり掲揚（5/4）</li> <li>・光の祭典・七夕（7/7）</li> </ul>

## (2) 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）の基本方針

## 1) 基本方針

上位計画における位置付けや、地域資源の現状と課題を踏まえ、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の基本方針を下記のように設定する。

**①自然資源に関わる人々の知恵と技術を次世代に継承する。**

藍、天然砥石、刀鍛冶等は、亀岡の自然資源を活用してきた人々の知恵と技術が結晶したミュージアムを構成する重要な資産である。現在は、少子高齢化の進行のみならず、生活の変容によってこれらの資産が失われつつあることが課題であるが、伝統的な亀岡の自然資源に関わるこれらの特産品ともいえる資産を多様な手法を駆使して、次世代に継承する。

**②美しい景観資源を市民と共に発見し、輝かせる。**

川辺の春を感じさせる桜、収穫の秋を彩るヒガンバナ、美しい棚田、ふるさと感じさせる農家集落や街並み、人々の心よりどころである神社のたたずまい、そして亀岡特有の気象条件が生み出す雲海、これらの亀岡を代表する美しい景観資源のみならず、里の道や田の畔等の亀岡の至るところに息づく景観資源を市民と共に発見し、その価値を磨き上げる。

**③食・暮らしに関わる地域資源を広げる。**

都市の利便性と田園の自然環境が融合した亀岡では、そば、栗、米やえびいも、丹波大納言小豆等、農産物やその加工品が豊かな食文化を形成しており、それらは亀岡の暮らしを彩っている。

さらに、藍染等の再生の動きによって、亀岡の食文化や暮らしをより一層豊かに広げる可能性を秘めている。このため、市民や事業者が協働しながら、食や暮らしに関わる新たな地域資源を拡充していく。

**④澄んだ水を守る。**

アユモドキやミズニラ等の水生動植物や亀岡の名水、桂川をはじめとした川の流れ、平の沢池等のため池等の地域資源によって亀岡は水の都市であるといえる。このため、生物多様性の保全と文化的景観の基盤である亀岡らしい澄んだ水環境を守る。

**⑤資源を結ぶミュージアム回廊を構築する。**

亀岡には、地域の歴史文化を体感できるいくつものハイキングコース・トレッキングコースが設定されている。さらに、三俣川や桂川等の川も保津川下りに代表される水のネットワーク路となっている。また、トロッコ列車は現在も亀岡を代表する観光資源である。このような道や川や鉄路によって、亀岡の地域資源を結ぶ、ミュージアム回廊を構築する。

## 2) 亀岡市の農村部においてコアとなる地域

亀岡市を河川流域に従って大別すると、①桂川本流域、②桂川支流園部川（本梅川）流域、大阪府高槻市に至る③安威川流域と大阪府能勢町を経て兵庫県に至る④猪名川流域に分けられる。この4流域に加えて、歴史・文化やアンケート調査結果を加えることにより、11の文化的コアを見いだすことができる（表4-2）。各コアは互いに古くから存在する「道」によってつながっていることに加えて、周辺部においては外部につながる動線としても機能してきた。

これらは緊密なネットワークによって連結される必要があることから、現在の主要道に過去の古道の情報も含め、それぞれのコア同士の連結を図り、亀岡市内のガーデン・ミュージアムのネットワークを捉えていく必要がある。

表4-2：農村部においてコアとなる11地域

流域	名称
①桂川本流域（左岸）	a. 保津コア
	b. 川東コア
①桂川本流域（右岸）	c. 篠コア
	d. 曾我部コア
	e. 禰田野コア
	f. 千代川コア
	g. 西別院コア
②桂川支流園部川（本梅川）	h. 本梅コア
	i. 宮前コア
③安威川流域	j. 東別院コア
④猪名川流域	k. 畑野コア

## ①桂川本流域におけるコア

亀岡市域の中心は桂川本流に沿った地域である。両岸からは多くの小河川が流入し、歴史的背景と相まって、多様性の高い様々な独特の個性豊かな地域が形成されてきた。

## ア) 桂川左岸のコア

京都方向から来た山陰道は、奈良時代には右岸の篠村の馬堀あたりから川を渡り、左岸の河岸段丘に沿って走っていた。現在もその一部は残されているが、亀岡市緑の基本計画では「和らぎの道」が景観を楽しむ道として認識されている。千歳車塚古墳、国分寺跡等の史跡や、出雲大神宮、愛宕神社、七福神巡り等の長い歴史を持つ社寺も多い。

## a 保津コア

保津は桂川舟運の拠点として篠の山本、馬堀等とともに交通の要衝地として栄えてきた。川沿いの氾濫原という立地特性による洪水との対峙も含めた文化が営まれてきた地域である。陸上の動線としては上に述べたとおり、古代の山陰道が通っていた。また、東方向の愛宕山方面に対しては、明智越や西国三十三所巡礼道があり分水嶺を越えて京都方面に向かっている。全域が旧亀山藩の支配下にあり、歴史的な名所は多数ある。中でも、請田神社、八幡宮、金比羅宮等が魅力的である。また、愛宕谷川下流に位置する保津の集落は特徴的な集落景観を維持しており、散策にも適している。氾濫原の曾我谷川はアユモドキの生息地として著名であり、そこに展開される水田風景と相まって優れた景観を提供している。保津小橋の夕焼けや八ノ坪の花回廊の景観も好まれている。

地域の東側には京都市域にある愛宕山に連なる急な山地となっており、愛宕谷川源流域の牛松山はその中でも市民から親しまれる山であることから、現在は明智越えのルートとともにハイキングコースも

## 第4章

設けられており、市民の訪問も多い。愛宕谷川には伏流水があり、高い水質の地下水が得られることから、醤油製造等も行われている。隣接する千歳町につながる地域にはマダケ林も広がっているが、現在は十分な景観を維持できていない点は残念である。ただし、この地域が産み出してきた伝統的竹産業は現在も健在である。竹林の中には優れた庭園を持つ福性寺も存在する。このほか、保津川下りの拠点であること、豊富な川魚資源とそれに起源して編み出されてきた多様な漁法も魅力となっている。さらに、近年では京都で行われなくなった京藍の地域ブランド化を目指す活動も始まっている等、現代的な魅力も秘めている地域である。



保津川と請田神社



保津小橋



保津の民家

### b 川東コア

川東地区とは保津も含めた地域として認識されていることが多いが、ここでは保津よりも北西側（桂川の上流側）を川東コアとしている。古代山陰道が通っていた地域であり、それに交わる形で西から桂川を渡河してくる愛宕道もあった。愛宕道は東方向に背後の山を越えると愛宕山山系につながる。同じ方向につながるルートとしては三俣溪谷もあり、地域の名所となっている。保津コアとは古道や緑の基本計画の中での「和らぎの道」によって、川向かいの千代川コアとは桂川にかかる月読橋等を介して連結している。七谷川周辺は桜並木が続き、丹波地方随一の桜の名所となっている。

丹波でも古くから中心的な地域であり、千歳車塚古墳や国分寺等、律令時代の遺跡が散見される。さらに、千歳の毘沙門八幡宮、愛宕神社、国分寺、七福神7ヶ寺、河原林の日吉神社、遠山家住宅、国分尼寺跡、馬路の池尻天満宮、旭の梅田神社、天照皇神社や松尾神社等史跡とそれに付随する有形・無形の文化財も多い。現在では、丹波七福神めぐりハイキングコースも設定されており、文化的な興味を引く地域である。幕末期の旧村単位で見ると、千歳は幕府直轄領と亀山藩領が混在したエリア、馬路は大半を幕府領が占めていたエリア、河原林は幕府領と亀山藩領が拮抗していたエリア、旭は大半が亀山藩領であったエリアなど、地区ごとに幕末期の支配体制は異なっていたという特徴がある。馬路や河原林には散策に適した町並みが現在も伝えられており、生垣や石垣が特徴的である。遠山家住宅のような優れた建築も存在する。また小集落であるが、千歳内の各旧村や旭でも古道や小河川に沿った味わいのある集落景観が存在する。馬路は幕末から明治にかけて優れた教育者を生んだ町としても知られ、学問教育の町としての歴史を有している。

生物多様性や生態系保全の観点からもオニバスを保持する平の沢池や七谷川における希少生物生息地づくりの取組み等がある。このエリアは様々な資源にも恵まれている。北東から供給される豊かな水に支えられた米作に加えて、大納言小豆はこの地域の特産であり、それ以外にも京野菜も豊かであることから、食も楽しむことができる。千歳の「へき亭」でこれを食することも魅力的である。食材以外では、地下水、砥石や古くから伝わる竹細工の生産も挙げられる。砥石に関しては隣接する京都市域側との軋轢があったという。このエリアでは、千歳における丹波七福神めぐりを核とした町おこし活動、河

原林におけるまちづくり計画の策定、馬路における女性による農産加工グループの存在等、将来をにらんだ夢のある計画もあり、今後さらに魅力ある地域になる可能性を秘めている。



七谷川沿いの桜並木



千歳車塚古墳



なごみの里あさひ

### イ) 桂川右岸のコア

京都からつながる山陰道は平安時代以降、桂川右岸を北西に抜けていた。また、摂津国に抜けていく摂丹街道がこの地域における桂川支流としては最も長い犬飼川に沿って伝えられてきたほか、稗田野から湯の花温泉、宮前を抜けて行く篠山街道もこの地域から分岐していく。最も広い平地が存在する地域であり、長い歴史と高い生産性が認められる地域である。

### c 篠コア

京都に近接したエリアであり、京都の影響を受けながら、豊かな生産力に裏付けられた生活が営まれてきたエリアである。保津と同様に桂川舟運の拠点を形成し、山本集落には当時の生活を色濃く残した景観が認められる。陸路では、京都とは老ノ坂峠を経て至る山陰道や唐櫃越によって、摂津とは西国三十三所巡礼道によってつながっていた。エリアの西部は山陰道によって亀岡中心部と、北部はかつて、馬堀付近からの桂川の渡河によって、現在は亀岡駅北東部の保津橋によってつながる。一方、南部は大阪府高槻市の芥川流域につながるエリアであり、江戸期までは高槻市の檜田につながるエリアでもあった。

京都から亀岡（丹波）に入る最初の地域であることから、様々な歴史的な出来事の多くが篠で記録されている。その代表的な人物が足利尊氏であり、明智光秀である。史跡でもあり、現在も地域で信仰を集めている歴史のある神社としては、篠村八幡宮、桑田神社、村山神社等が挙げられる。この地域には頼政塚や合戦野といった地名も認められ、その歴史的背景も興味深い。歴史には登場しない人々の生活も古くから営まれ、近世まで活発に行われてきたことは篠窯跡群に始まり、三間車道やめがね橋に至る様々な史跡の存在が裏付けている。これらを支えてきた文化も豊かであり、山本集落の鯉のぼりの掲揚や七夕行事等は魅力的である。

篠は現在も豊かな野菜の生産地域であるほか、竹炭を用いた農業を試みる等、先進的な農業を展開している地域である。また、隣接する京都市西京区で盛んな筍栽培も盛んである。川東地区におけるマダケの竹材生産とは異なり、このエリアでは筍生産が中心的である。

このエリアの南部には長尾山を中心とする地域に人工林にかつての里山を交えた森林が広がっている。そこには現在も高い生物多様性が認められ、陸棲のカタツムリであるコベソマイマイやカスミサンショウウオ、モリアオガエル等を見ることができる。市民の森でもこれを見ることができることから、ここを訪れる市民も多い。長尾山からは、亀岡を象徴する雲海や京都市側の西山連峰の景観、運がよければ比良山山系も遠望するチャンスがある。篠には長尾山以外にも鶴ノ川におけるホテル等、魅力的な

自然が多く存在している。



桑田神社



山本集落周辺



船頭の法被と棕櫚縄

#### d 曾我部コア

曾我部は亀岡中心部の西に位置し、平安時代以降の山陰道から分かれた摂丹街道が摂津に向かって行く道に沿っていた。東側の篠とは亀岡市街を挟んで、山陰道によって、南部の東別院町とは府道407号線あるいは石田梅岩に由来する心学の道によって連結している。亀岡市街の西部郊外部分は、曾我部地域に連続的であり、歴史的な史跡も多い。また、南西部の西別院町とは犬飼川沿いの摂丹街道である国道423号によって大阪府につながっていく。同様に摂津とのつながりを持つ西国三十三所巡礼道は現在では府道6号線によって大阪府高槻市に通じている。一方、北に隣接する葎田野とはさしたる境界もなく同様の農村地域として連続性を持っている。川を隔てた保津とは現在では保津橋によって結ばれている。幕末期の曾我部エリアは主に、亀山藩の支配下にあった北半部と摂津高槻藩の支配下にあった南半部に分けることができる。また一部には篠山藩領も南部に存在した。

この地域にも古い歴史を持っている史跡や社寺仏閣が多く存在する。特に葎田野神社社叢に伝えられている小丘は弥生時代に遡るとされている。與能神社、小幡神社、金剛寺、穴太寺等が興味深い。特に穴太寺は、幕末期には幕府直轄領内に所在する寺院であり、現在でも祭礼等は同じコア内とは異なるつながりを持って行っているという。また、隣接する亀岡市街につながる農村地帯にも走田神社のような歴史ある社寺が存在することから、このコアと一体の地域として理解することが可能である。

生物多様性の視点からこのコアを見ると、ダルマガエルが見られる曾我谷川や犬飼川の生物相等のほか、與能神社の境内林が重要であることが分かる。これらの自然が産み出す資源は、曾我部に豊かな農産物をもたらしている。曾我部米、京野菜に加えて、かめまるいも等が知られている。かつてはタマネギ生産地としても名を馳せていたが、現在は衰退しており、その復活も望まれる。さらに、周辺の里山から得られた資源利用も失われており、同時にこれらの復活を目指した山林管理の再生によって、さらに魅力あるコアとなる可能性を秘めた地域であるといえる。この地域は亀岡盆地につながる地域であるが、ここも優れた雲海の景観が楽しめる場所である。優れた景観としては穴太寺からつながる秋のヒガンバナの景観も注目できる。また、犬飼川堤防上の桜並木も魅力的である。地域の文化を伝えるユニークなバス停も存在する。現在では表だった地域おこしの活動は認められないようであるが、恵まれた環境と文化を再認識することによって、ミュージアムのコアとしての展開が期待できる地域である。



與能神社



田園風景



道端の石灯笼

## e 蕨田野コア

このコアには吉川町と蕨田野町が含まれる。蕨田野コアも弥生時代に遡るといわれる蕨田野神社背後の遺跡、条里制区画の残存等、歴史を感じることでできる地域である。亀岡市中心部から兵庫県篠山に向かって伸びる篠山街道に沿って発展してきた地域と位置付けることができる。隣接する地域としては、亀岡中心部、千代川コア、曾我部コア、西別院コア及び宮前コアが存在し、数多くの地域との連結性を維持してきた地域である。亀岡中心部とは篠山街道によって、千代川コアとは山陰道によって、曾我部コアとは連続的な農村地帯によって、西別院コアとは犬飼川沿いの摂丹街道によって連結している。また、宮前コアとは、亀岡市によって景観形成地区に指定されている湯の花温泉を経て篠山街道によってつながる。これらの亀岡市内各地域との高い連結性は、この地域の持つ要衝の地としての価値を示唆するものである。北に隣接する千代川コア内の大井町とも共通する特徴である。この地域の北半部は、亀岡市の自然景観形成地区の山脈（やまなみ）地区として重要な位置付けとなる。

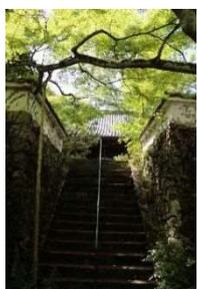
文化的な魅力としては、残存する条里制地割、蕨田野神社、御霊神社、龍潭寺、神藏寺、とこなげさんとも呼ばれる千手寺、積善寺等を挙げることができる。吉川町域には蛭子神社がある。また、それぞれに有形、無形の文化財が存在しており、蕨田野神社、御霊神社、若宮神社、河阿神社の4社による佐伯灯籠祭、吉川町のとんど焼き、龍潭寺の庭園等が重要である。

農業生産としては特筆されるものは出てこないが、豊かな水と米を利用した元禄時代創業の大石酒造は亀岡を代表する銘柄である「翁鶴」の醸造元として著名であり、多くの観光客を引きつけている。

御霊神社に多く伝えられる古木の存在、神藏寺門前の大王池等は優れた景観や生物多様性を維持する存在として注目される。文化的にはとうろう街道(国道372号)等も興味深い存在である。なお、桜天満宮では堇青石仮晶（桜石）のような興味深い岩石も楽しめる。景観に関しても、大王池や千手寺からの眺め、が注目されるほか、地域の文化を伝えるユニークなバス停も存在する。



神藏寺



大石酒造



とうろう街道（バス停）

## f 千代川コア

この地域は千代川町と大井町を含む。千々川が流れ、この水を用いた水田景観が特徴的である。亀岡中心部とは山陰道によって、蕨田野コアとは連続的な田園景観によって、川東コアとは桂川を越える月読橋等によって、宮前コアとは千々川沿いの緩やかな山越えの愛宕道によってつながる。山陰道はそのまま市域外の園部へとつながっていく。千代川町域は、幕末期には亀山藩領と幕府旗本領が混在する地域であった。一方、大井町の一部は元御除料であった点が特徴的である。

この地域にも歴史性の豊かな神社が散在する。大井神社、岩城神社、八幡神社、小林の天満宮等に加えて八ツ岩権現の21尊磨崖仏も注目される。一方、旧亀山城内の建築物として千代川小学校の校門等も伝えられている。岩城神社の湯立祭りや秋祭りの神輿、大井神社の立花行事等、興味深い祭りがある。

千代川コアには特徴的な景観がいくつか認められる。北ノ庄や湯井に見られる畦畔木の景観は特筆できる。一方、この地域は圃場整備の対象となっている地域でもあり、畦畔木景観は今後減少していく可

## 第4章

能性もある。また、千代川町域の水路に沿った特徴的な町並みや桂川沿いや嶺松寺の桜の景観も注目される。千々川がもたらす清涼な水は、ホタルやサンショウウオの生息を可能にしており、生物多様性の観点からも重要である。この地域には行者山のハイキングコースも設定されており、これらの景観や自然を楽しめる場でもある。



集落の様子



大井神社



畦畔木

出典：近畿農政局資料

### g 西別院コア

西別院は桂川右岸に合流する犬飼川の最上流域に相当する地域である。摂津に抜ける摂丹街道（国道423号）沿道のため、亀岡市都市計画区域外ではあるが、亀岡中心部とのつながりは深い。江戸時代末期にはこの地域は摂津高槻藩領に属していた。隣接するコアのうち、曾我部コアや葎田野コアとは犬飼川もしくは摂丹街道によってつながる。安威川流域にある南側の東別院コアとの間には現在は府道733号線が連絡している。一方、北に隣接する園部川流域の本梅コアとの間には現在も道による直接的なつながりはない。周囲には分水嶺を形成する小和田山、鴻応山、湯谷ヶ岳等の山々が囲んでいる。

古くからの街道筋で、御田植え神事で有名な松尾神社、多吉神社や笑路城跡、明智の戻り岩等が伝えられている。この地域はそばの栽培が盛んで、犬甘野そばとして知られている。周辺にはかつての里山景観が広がっており、竹炭生産も行われている。鴻応山からの大阪湾まで見通せる眺め等、魅力的な景観が伝えられている。また、自然環境を活かした移住促進運動に取り組む等、豊かな自然景観を売りにした活動が進められている点も魅力的である。



松尾神社



多吉神社



そば畑

### ②桂川支流園部川流域におけるコア

園部川は桂川の支流であるが、亀岡市域では園部川の支流である本梅川が、桂川本流に沿った地域とは異なる流域を形成している。上流部は大阪府に接しており妙見道等が通じているが、本梅川に沿った北に向かうルートが基本的であることから園部藩の影響が考えられる地域である。

### h 本梅コア

本梅コアは本梅川や妙見道によってつながる宮前とのつながりが強い地域である。分水嶺を隔てて、

## 第4章

曾我部、畑野、西別院を隣接地として持つが、かつてはそれほど強い結びつきはなかったと考えられる。畑野とは、現在は府道 731 号線によって接続している。一方、猪名川流域である大阪府側とは妙見道によってつながっていた。

この地域は江戸時代末期には、亀山藩領、幕府旗本領、園部藩領に三分割されていた。それぞれに優れた文化財を持っているが、延福寺、加舎神社、屋磨内神社、廣峯神社等を挙げることができる。加舎神社と屋磨内神社が合同で行う祭礼や廣峯神社の田植えの終了を祝うサナブリ神事は興味深い。このほかにも多様な祭りが現在も伝えられており、これらを楽しむことができる。

このコアでは様々な自然の資源利用や豊かな農産物生産が続いている。丹波栗や本梅米は優れた品質を維持しているが、このような産物を食として楽しむことができる場は現状では見出せないのは残念である。かつては寒天の産地としても知られていたが、既に失われている。また、ユキノシタやチドメグサといった野草の薬としての利用の知恵や、刀鍛冶の技術が現在も伝えられている等、かつての文化を生で知ることができる地域としても注目できる。このような豊かな幸を支える水は、周囲の分水嶺を形成する山々から供給される。そのような水の中でホトケドジョウのような貴重な生物が生きていることも重要である。分水嶺からは優れた景観や自然を楽しむことができる。畑野コアとの境界部にある半国山のハイキングコースは、そのための好適な空間として見るることができる。



延福寺



延福寺の庭園



本梅川

出典：亀岡の自然 100 選

### i 宮前コア

このコアは宮前町と東本梅町から構成される。本梅川流域として、本梅コアとのつながりが強い。また、篠山街道（国道 372 号）によって湯の花温泉を介して葎田野コアと、愛宕道（府道 73 号線）を経て千代川コアとつながる。分水嶺を西に越えると畑野コアがあるが、間に分水嶺となる半国山があり、動線としての結びつきは薄い。これに対して本梅川あるいは篠山街道に沿って北方に所在する南丹市とのつながりは強い。

この地域は幕末期には亀山藩領と園部藩領であったが、一部に幕府旗本領も存在した。西の千代川コアとつながる愛宕道に沿っては宝林寺や佐々尾神社等が、宮前町には金輪寺、東本梅町には楽音寺が所在し、それぞれが優れた文化財である。それ以外には谷性寺、宮川神社等も注目される。それぞれに神事や祭礼が伴っており、興味深い地域である。

この地域にも豊かな水に支えられた農産物や景観が存在する。金輪寺山麓で初冬に見られる亀岡盆地に匹敵するような雲海の景観、半国山山麓の音羽の滝、初夏のホテルが飛ぶ景観等は豊かな自然を示すものであり、注目に値する。また、宮前町神前や東本梅町大内では砥石が生産されてきた。神前では現在は防鹿柵に囲まれて確認することはできないが、かつての砥石生産の様子が伝えられている。薬草と健康づくりの会では、薬草の栽培と食用を勧めるとともに、健康生活法の知識を普及する活動を行っている。畑野、本梅との境界にあたる半国山にはハイキングコースもあり、自然を楽しむことができる貴重な地域である。



金輪寺



佐々尾神社



神前の薬草

### ③安威川流域のコア

東別院は、畑野と同様に、桂川水系とはつながらない地域である。流域としては大阪府茨木市に流下する安威川流域の最上流域となる。すなわち、淀川流域に直接つながる流域である。

#### j 東別院コア

東別院コアと西別院コアとは現在は府道 733 号線を介してつながっているが、それほど強いつながりがあったとは考えられない。北側には曾我部コアが存在するが、このコアとは緩やかな分水嶺を介して、現在では府道 407 号線によってつながる。また西国三十三所巡礼道や心学の道によっても亀岡中心部とつながっている。大阪府茨木市とは安威川沿いの府道 46 号線でつながる。また高槻市とは安威川最源流域がある二料とのつながりはあるものの、黒柄岳等の分水嶺を形成する山地によって隔てられている。

幕末期の東別院は、東半分は亀山藩領、西側は高槻藩領で、篠山藩領も一部に存在した。町内には石田梅岩とのつながりが強い春現寺、春日神社、金輪寺、甘露寺、春日神社、鎌倉神社、西方禅寺等見どころは多い。春日神社の秋祭りに見るように、これらの社寺には祭礼も多く認められる。

山間地域ではあるが、野菜の生産は盛んである。また、里山においてはナラヤカシを用いた木炭生産が行われている。川から得られる幸も多く、鰻、鮎等が豊かであることから釣りが盛んな地域でもある。これらの資源を支えるのは優れたかつ生物多様性の豊かな自然である。町内各地の森林や栢原川は豊かな自然を象徴する存在であり、訪れる価値は高い。これらの優れた景観の価値をさらに高めているのが、鎌倉道の桜並木、南掛川沿いの川沿いの景観である。一方、南掛川の下流域の府境周辺では採石も行われており、自然の劣化が心配される。



石田梅岩生誕地



春現寺



甘露寺



西方禅寺

### ④猪名川流域のコア

亀岡市域で唯一兵庫県につながりを持つ猪名川流域の支流である能勢川流域の最上流部に位置する地域である。この地域を流れる大路次川と千ヶ畑川は合流して能勢川となり、南流する。能勢川は猪名

川の支流であり、大阪府、兵庫県の木炭産地とつながる。地形的には亀岡とは異なる地域であることが理解できる。

#### k. 畑野コア

畑野コアは、亀岡市の西端に存在する地域である。歴史的背景は明確ではないが、市内では東側の本梅及び宮前と空間的につながっている。動線としては、本梅とつながる府道 731 号が唯一の市内とのつながりである。分水嶺は半国山や小和田山が形成している。北は南丹市に府道 54 号を通じてつながり、南は同じ府道を通じて大阪府能勢町につながる。千ヶ畑や土ヶ畑という地名から、この山間地域はかつて盛んに焼畑が行われていた地域であることが推定される。

畑野地域は幕末期には元御除料（天皇領）であった千ヶ畑と園部藩領であった土ヶ畑及び広野からなる。天皇領であった千ヶ畑は特徴的な存在であり、深山の趣が強い法常寺や西山神社は魅力的な空間を形成している。法常寺からの谷を見下ろす風景は特に優れたものである。土ヶ畑の八幡宮は南丹に抜けていく峠道沿いに所在するが、文化的価値の高い空間である。様々な祭礼や盆踊り、とんど焼き等のほか、火の用心の夜回りも興味深い。

この地域には標高が高いことも相まって、寒天作りが最近まで行われてきた。現在もその跡を見ることが出来る。寒天とともに冬の冷え込みを利用した味噌の寒仕込みも行われており、魅力的で特有の食材生産が行われていたことが分かる。棚田において生産される米の収穫後は、稲藁を材料にして、農地の覆土、堆肥作成、しめ縄や荒縄作り、防寒用利用等の用途に使われている。

このエリアを流れる大路次川と千ヶ畑川は清流であり、豊かな生物多様性を維持している。宮前コアとの分水嶺である半国山も同様の機能を維持している。半国山からの眺望が優れていることと合わせて考えると、千ヶ畑におけるハイキングは魅力的である。



法常寺



寒天作りの道具



西山神社

#### ⑤ネットワーク化において特に考慮すべき項目

これまで亀岡市においては亀岡市総合計画、緑の基本計画、都市計画マスタープランや景観計画を策定し、その実現に向けた活動が展開されてきた。総合計画では市域は大きく3つにゾーニングされ、川東が「潤いと実りのゾーン」、桂川右岸一帯が「にぎわいと街のゾーン」、それ以外の市域の西側全体が「交流とふれあいのゾーン」と定義付けられている。

今回提案した各コアについてみると、亀岡市総合計画における3つのゾーンにはそれぞれ2つ、4つ、5つのコアが含まれている。また、今回はそれぞれのコアのつながりを「道」の視点から改めて見ること、それらは現在でも重要な動線であることが多く、既に総合計画の中で「地域交流軸」として示されているものが多い。それらの多くは歴史のある道でありながら現在に至るまで利用されてきたルート、山陰道、篠山街道、愛宕道、摂丹街道等である。

道の存在するコア同士は古くからつながりを持ち、文化的な交流も豊かであった。一方、市内西部では異なる地形要因や歴史的背景によって、コアのつながりには濃淡がある。分水嶺を隔てたコアの間では、未だに自動車道がない場合や、かつての古道がわずかに残されている場合がある。

今後、各コアの方々が互いに他のコアを理解しあうことが、「小盆地宇宙」としての市全体のまとまりをさらに醸成していく上で重要である。また、市内にとどまらない周辺地域とのつながりの理解もそれぞれのコアの特徴を理解する上で重要であり、各コアにおいて生活を営む人々の多様な交流の歴史の理解は必要不可欠である。

今後はさらに、地元の古老や、知識や技術の伝達者からしか得られない情報を蓄積し、後継者が育つような環境作りが望まれる。

また、各コア間での情報交換や交流を今まで以上に活発に行い、亀岡まるごとガーデン・ミュージアムとしての価値を向上していく必要がある。

### 3) 亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）のイメージ図

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想は、構想の基本的な考え方をもとに、亀岡まるごとガーデン・プロジェクトを立ち上げ、亀岡市全域を「小盆地宇宙」の庭園、博物館として市民と共にまちづくりや自然環境を保全し、内外に亀岡の魅力を発信し続け、多くの交流人口を呼び込むものとしている。

こうした構想を実現するため、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）のイメージ図（図4-3）を示す。

亀岡市の農村部では、それぞれの森-里-水辺のつながりを活かした、多様な自然環境や地域資源があり、これらを持続的に利用、管理する知識や技術等の蓄積がみられる。地域資源を持続的に利用、管理する知識や技術は、地域固有の文化、里山等の文化的景観として豊かな生態系や生物多様性を支えてきた。

今後に向けて、地域の自然、人と自然の関わり合いを多様な視点で包括的に理解し、地域の生態系や動植物が環境、あるいは資源として文化的景観とどのように関わってきたかをさらに丁寧に読み解き、亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想に活かす必要がある。

一方、亀岡の農村部の自然環境、地域資源、文化的景観は、生活様式や生業の変化、都市化や公共事業の進展等によって大きく変化してきた。このような変化を受けとめながらも、価値ある自然、人と自然との持続的な関わりを支えた伝統的な知識や技術、仕組みの本質を失わない工夫と努力が不可欠となる。

